

[4] 串間市小体連（学校数10校 児童数 884人）

I 年間事業

期 日	事業名	主な内容	会 場
5月11日(水)	第1回南那珂地区小中学校教科等研究会(中止)		南郷ハートフルセンター
5月26日(木)	第1回理事会	前年度事業、会計報告・役員選出・事業計画・予算案の審議	福島小学校
6月7日(火)	第2回理事会	研究推進・体力テストの実施について・水泳記録会に変わる取組について	福島小学校
7月14日(木)	第3回理事会	研究推進・運動会審議 水泳記録集計	福島小学校
10月6日(木)	第4回理事会	研究推進・授業研究会指導案検討 陸上記録会審議・陸上記録会用具確認	市総合運動公園
10月17日(月)	第5回理事会	陸上記録会選手名簿確認・前日準備	福島小学校・市総合運動公園
10月18日(火)	第57回串間市小学校陸上記録会		市総合運動公園
11月21日(月)	第6回理事会、第1回南那珂地区小中学校教科等研究会		北方小学校
12月13日(火)	第7回理事会	研究のまとめ	福島小学校
2月16日(木)	第8回理事会	事業反省・研究のまとめ・次年度事業計画	福島小学校

II 事業部のあゆみ

1 陸上記録会

- (1) 大会名 令和4年度 串間市小学校陸上記録会
- (2) 実施日 令和4年10月18日(火)
- (3) 会場 串間市総合運動公園内陸上競技場
- (4) 出場者 串間市内各小学校6年生児童 ※小規模校は5年生も参加
- (5) 実施種目
 - トラック競技
 - ・100m ・800m(女子) ・1000m(男子) ・50mハードル ・400mリレー
 - フィールド競技
 - ・走り高跳び ・走り幅跳び ・ソフトボール投げ
- (6) 競技方法
 - タイムレースとする。
 - 出場は、リレーを除き、トラック・フィールドを合わせた全ての競技の中で、1人1種目とする。
 - その他細部については、串間市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程

開会式	8:45	競技開始	9:00
競技終了	11:45	閉会式	11:50
- (8) 表彰
 - 上位6名までを入賞とし表彰し、参加児童全てに記録賞を渡す。
- (9) 反省
 - 熱中症対策として、競技時間短縮を目指し、100m走を全員参加ではなく、選抜にして実施した。
 - はちまきの有無 → 人数減により、はちまき無しでも行えるのではないかと。しかし、観覧側からは児童特定がしづらくなる。 → 次年度検討。
 - 第6学年不在の小学校の参加の有無 → 第6学年不在の小学校は不参加可能とする。
 - 役員確保が難しい。 → 中高生からボランティアを募る。
 - 記録をスムーズに行うことができるように、本部記録担当は自校からタブレット、PCを持参する。会長は、その旨を担当校へ連絡する。
 - 児童の減少、役員不足などの観点から今後記録会を実施していくのかの検討が必要である。

(10) 新型コロナウイルス感染症への対策

- 開始時刻を早めたり、プログラムを改めたりして半日開催とした。
- 観覧席入場に検温所を設けた。
- 「児童一人につき串間市在住の保護者一名まで」と入場制限を設けた。
- 保護者は常時、児童は待機中マスク着用とした。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童の育成
～ 小・中連携による主体的・対話的で深い学びのある授業の工夫・改善を通して～

2 研究内容

- (1) 主体的・対話的で深い学びのある体育科授業の在り方について
- (2) 技能の向上を図るための手立てや工夫の研究
- (3) 授業研究会の実施

3 研究の目標

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動にすすんで関わりたくなるような指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

- 体育科授業において、主体的・対話的で深い学びの視点から、自分やチームの課題と向き合い、運動のポイントを意識できるような工夫を行えば、運動の楽しさを実感し進んで関わるようになるであろう。
- 研究を小・中が連携して行うことで、より高いレベルでの運動のポイントを意識して運動に取り組むことができるようになり、生涯にわたり運動に親しむことに繋がるであろう。

5 研究の実際

- (1) 主体的・対話的で深い学びのある体育科授業の在り方について
串間市小体連では主体的・対話的で深い学びが達成された児童の姿についてゴールイメージを設定した。

串間市小体連の目指す児童の姿

- ① 課題を見つけ、解決に向けて主体的に運動に取り組む児童
- ② 人対人、人対教材などとの対話を通して、課題解決につなげることができる児童
- ③ ①と②の過程を通して、試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決するにはどうすればよいかを考える児童

このゴールイメージ達成のために授業において、重視すべきポイントについて以下のようにまとめた。

- 児童に「運動のポイント」を意識させるために、一単位時間で児童に身に付けさせたい知識や技能に結びつく課題を設定し、主体的に話し合ったり、運動に参加したりできるようにする。
- タブレットなどの ICT 機器を活用することで振り返りを行うことや、ねらいに沿った動きの発見に役立てるようにする。

- (2) 技能の向上を図るための手立てや工夫の研究
今年度は昨年に引き続き、「ネット型ゲーム」に焦点を絞り、研究を進めることとした。

その中で串間市の体育主任の多くが抱える課題が明らかになってきた。運動のポイントを児童に実感させるうえで、児童数の少ない小規模の学校が多く、ゲームや練習を行って知識や技能の定着を図る場の設定が難しく指導に自信がもてないという難しさを多くの教員が抱えていることが分かった。そこで、今年度は、教具の工夫や場の設定など少人数でも技能の定着を図れるような運動例を串間市小体連で作成することとした。

(3) 授業の実際

令和4年11月21日(月)に授業実践を行い、研究仮説の検証を行った。

単元名	学年	授業者
ネット型ゲーム「プレルボール」	第3学年	北方小学校：川原 裕一朗 教諭

1 本時の目標

- スムーズな攻撃につなげるために2番目に触る人の動きを考え、それを生かしたゲームを工夫することができるようにする。(思考・判断・表現)

2 授業のポイント

- 本単元は8時間で計画され、単元を通して、ルールを工夫として、自分のコートで3人ボールに触るうち、キャッチできる人を段階的に変えていった。単元の前半では、3番目のアタックする人がキャッチしてから打つようにして、ねらったところにボールを打つことをねらいとした。本時では、2番目の人はボールをキャッチして、動いても良いこととした。これによって、パスがつながりやすくなるとともに、チームの考える理想的な形でアタックにつなげるができるようにした。

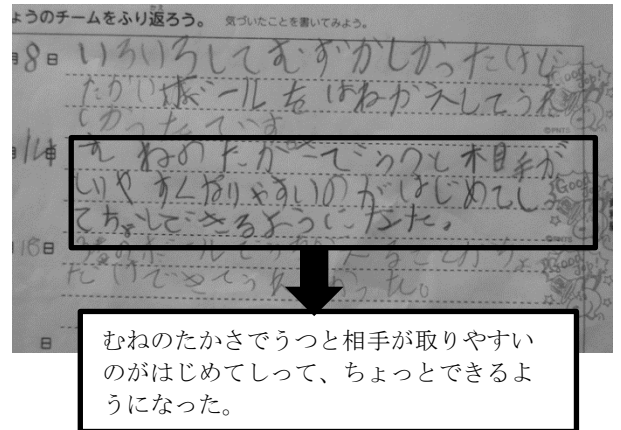


【チームでの練習の様子】

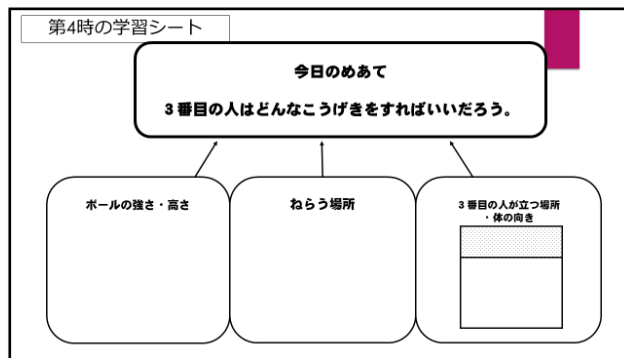
	1	2	3	4	5	6(本時)	7	8	
指導内容	知	①知識 (プレルボールのルールを知る)	②技能 (ボールを打ちつける)	④技能 (ボールの落下点を予測して動く)	③技能 (相手に返球する)	①技能 (攻守を切り替えながらゲームをする)			
	思			②思考・判断 (ボールに応じた体の向きを考える)	③思考・判断 (ボールをはじく強さや方向を考える)	①思考・判断 (動きの工夫に気付く)	①思考・判断 (友達に伝える)	①思考・判断 (友達に伝える)	
	態	⑤健康・安全 (場や用具の安全に気をつける)	①主体的 (進んで取り組む)	③協力 (協力して準備や片付けをする)		②公正 (ルールを守る)	④尊重 (友達を認める)	④尊重 (友達を認める)	④尊重 (友達を認める)
学習過程	10分	1 準備運動 2 集合、整列、あいさつ 3 本時の学習内容の確認							
	10分	4 プレルボールのルールについて学ぶ。	4 ボール走さ(的当て、コーンあて)	4 ボール操作(的当て)	4 ボール操作(的当て) 5 チームの作戦を立てる	4 ボール操作(的当て) 5 チームの作戦を立てる	4 チームで練習(2対2ラリー) 5 チームの作戦を立てる	4 チームで練習(2対2ラリー) 5 チームの作戦を立てる	4 チームで練習(2対2ラリー) 5 チームの作戦を立てる
	15分	5 基本的なボール操作に慣れ親しむ。(片手・両手・サイド)	5 ゲーム自体の課題を分ける。	7 ボールに合わせて移動する。(円になってパス2対2ラリー)	6 2番目がキャッチ移動ルールの練習を行う。	6 2番目がキャッチ移動ルールの練習を行う。	6 2番目がキャッチ移動ルールの練習を行う。	6 通常のゲームを行う。	6 チームで作戦を工夫する。
	10分	まとめゲーム							

- 第1時においてルールを理解したうえで自分たちの課題と感じたことを挙げさせた。出てきた課題を第2時以降の時間のめあてとして設定し、練習や話し合いを通して児童が課題を解決しながら技能を向上させることができるように授業を進めた。

ワークシートをもとに、児童の気づきを各時間の振り返りで取り上げることで、新たな気づきにつながるようにした。



- 話し合いの場面では思考ツール（クラゲチャート）を活用した。思考ツールを活用することによって、一つの動きについて考える際に複数の観点に目を向けることができるようにした。また、3年生という発達段階を考慮して、あらかじめ教師の方から観点を与えた。課題に対して、「ボールの強さ」や「体の向き」など児童に観点を与えて話し合わせることで本時のまとめにつながる運動のポイントに気付かせるようにした。



【使用したワークシート】

【児童の話し合いの様子】

- 練習の様子を動画で撮影し、練習後に確認することで、自分たちの動きの確認を行う。チームでの練習の様子を動画で撮影し、全体で動画を見ながら、学習内容の確認や新たな気づきになるようにした。動画を見せる際には、教師が意図的に見せるポイントを絞ることで、児童の観る視点が明確になるよう工夫を取り入れた。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- 児童自身の課題から構成されためあてを設定することで、児童が自身も課題意識をもつようになり、主体的に動く活動となった。
- ワークシートに思考ツールを取り入れることで、児童が観点をもって自分たちの動きを考えることにつながり、対話も活性化させることができた。

(2) 課題

- 児童の実態に応じて、練習方法やルールの設定については、十分な実態把握と適切な練習方法を結びつけていく必要がある。
- 今年度、ネット型ゲームの運動アイデア集を作成したが、十分に実践に結び付けて、より有用性の高いものにしていく必要がある。